

開催日：平成28年12月14日（水） 13：30～15：30

開催場所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

釧路湿原自然再生協議会 第20回 旧川復元小委員会 議事要旨

会議の冒頭、事務局から第20回旧川復元小委員会の発言概要と今後の検討方針(案)について、説明を行った。

■議事1：平成28年度茅沼地区モニタリング調査結果について

(委員) 茅沼地区地下水位観測の地点名はあえて「沼幌」としているのか。新たな旧川復元事業を行うヌマオロも沼幌なので、地点名を変えた方が良いと思う。

(事務局) 茅沼地区は以前から沼幌地区と呼ばれていたため「沼幌」と付け、旧川復元後も地下水位観測地点の名称として変えずに使い続けている。今となっては分かりにくい表現になっているかもしれない。名称の使い分けについては、今後考えていきたいと思う。

(委員) 旧川復元箇所土砂トラップで効果が大きく表れているという報告を頂き、この事業の成果が表れているのが分かり非常に嬉しく思う。今後もこの洪水時に限らずモニタリングを継続して欲しい。私どもの方でも市民レベルのモニタリングをしていきたいと思っている。

■議事2：ヌマオロ地区旧川復元実施計画（案）について

(委員) 実施計画を訂正するというわけではなく、モニタリングについて、このような理解をしてはどうかという提案がある。ヨシの回復予測について、実施計画では短期予測・長期予測をしないとのことだったが、「ハンノキ林がヨシ群落に変化する」ということについて「短期変化としては、河道切り替えにより周辺の地下水位が上がるため、ハンノキ林の枯存木（枯れて残る木）が出てくる。単位面積あたりのハンノキ林の枯存木を調査すると、モニタリングで短期の効果をチェックできる。長期予測については、ヨシがどのように優占するかは長期になって分かる事なので、方形区でヨシ群落の占める面積が、例えば25%まで、50%まで、75%まで、75%以上など4段階に分けてヨシ群落の変化の過程をモニタリング調査で確認していく」という理解で良いのではないかと思う。

(委員長) 今のご意見は、実施計画案としてはこのままで良いが、実際の調査では、ヨシ群落のモニタリング調査について、このような内容の調査を含んで欲しいという要望であった。

実施計画に向かって細かいところについては、今のご意見の様に、また新たなモニタリング方法の追加などがあると思うが、まず案を出さないと進まないの、特にご意見が無ければ、この修正案で進めていく。なお、協議会までに何かでてきた場合、委員長と事務局にお任せ頂ければと思う。他にご意見は無いか。

(委員) 旧川復元区間上流の直線河道のところに落差工があって、魚道が土砂で完全に埋まってしまっている。蛇行化した場合、ここから石や砂が多量に流れるのではないかと思う。その対策はどう考えているのか。上流をいじらなくても上流部の砂が、蛇行化したところに入ってくると思う。また、この計画を作るにあたって、今年8月の氾濫した写真は無いのか。

(事務局) 前回ご説明した通り、今回の流量は既往最大まではいっていないが、事業実施する場所なので撮影はしている。

(委員長) 写真があるということなので、話を進めて後で撮影したものを映して頂く。過去にもっと大きな出水があって、検討しているデータとしては、今回より多い既往最大の流量を使ってシュミレーションして検討しているものである。

(委員) 私たち農地・水保全隊は、沈砂池の砂の除去をしている。それにより排水路に溜まっていたものが、また沈砂池に入ってきている。ヌマオロ川でも蛇行化すると旧河川の方が低いので、同じ事が起こると思う。旧河川が埋まる可能性は大である。前回上流の魚道があったところは北海道管理のところなので今回の事業では関係ないと言っていたと思うが、果たしてそれで良いのか。後で大きな影響が出てくるのではないか。

(委員長) 今のご意見は、旧川復元実施計画は、国の管轄の場所で、この上流は北海道の管轄の場所なので実施計画には盛り込んでいなかったが、上流にも影響が出るため盛り込むべきであるという事だった。旧川復元により下流は氾濫しやすくなり、水位については逆に上流への影響は少なくなると思う。

(委員) 旧河道の方が地盤がかなり低いため、道の区間の水位は将来的には下がる。

(委員) 上流の堆積物が下流に流出していき、上流の河床が昔の河床より下がってしまわないのか。

(委員) 上流の区間で今堆積しているものが、堆積していない状態まで戻る。直線化後に直線区間が堆積し、その影響で今上流の魚道のところが1m以上堆積している状態だが、元の状態まで下がると思う。その先がどうなるのかというのは言えないが。

(委員) 私たちは沈砂池の砂を除去すると、それ以上に上流側の河床が下がっている。旧川復元

区間上流の河床は、元の状態よりも下がらないのか。

(委員長) おそらく下がらないと思う。地形的には元の状態に戻るので、旧川復元区間の流路は土砂が流れる事により変わるかも知れないが、上流は直線化した当時の状態まで戻り、それ以上に下がるとは考えにくい。どんどん掘れていき、土砂流入小委員会のところの様になるかという、そうではないと思っている。元に戻すので元の状態より悪くなるとは考えにくい、もし悪くなった場合は、モニタリングを続けていくので、対策が検討される事になると思う。

8月の大きな出水は、とても参考になることだと思う。過去にはこれより大きな出水があったという事だが、直ちに復元事業で上流が大幅に変わるという事は考えにくい。いずれにしても、モニタリングしていく中で、そういった事も次第に明らかになってくると思う。

(委員) やれるだけやってみましょう。もしそれで駄目なら修正していけば良い。

(委員長) それが順応的管理という事である。全部が事前に分かるという事はありえないので。

(委員長) 実施計画案としては、これで協議会に挙げることになるが良いか。疑問点等があれば、事務局または委員長に質問頂ければと思う。修正が出てきた場合、委員長レベルの判断で直せるところは直し、委員会にかけなければならぬほどの修正が出てきた場合には、旧川復元小委員会をまた開くことになる。この判断は委員長および事務局に一任頂ければと思う。

■その他、ヌマオロ地区旧川復元区間の出水状況に関する写真・動画を紹介

(委員長) 右岸側に水が氾濫しているのがわかった。

(事務局) 前回までの委員会でご説明しているが、右岸側の地盤が低いので、ほとんど右側に氾濫していくシミュレーション結果になっている。

(委員) 良い画像であった。

(委員) ドローンの映像は分かりやすかった。釧路川本流や他の事業箇所も機会があったら公開して欲しい。

(事務局) 一部撮影しているところもあるが、全部が撮影できていない状況である。これについては整理して、茅沼の検討中の調査結果と併せて次回以降にご報告させて頂く。

以上